

シンポジウム

武蔵野の雑木林はみんなの財産！

森をたのしみ 森を育てる



昔から人々が工夫を重ねてきた雑木林の維持・再生に、現代の科学の光をあてます。併せて、各地の効果的な取り組みから、将来にわたってまちの中の雑木林(森)を活かし楽しむためにはどのようにすればよいのかを考えます。

とき **3月2日(土)**
午後1時30分～4時 (1時開場)
ところ **武蔵野スイングホール**
10階スカイルーム
【武蔵境駅北口 左側線路沿い】

植物を解説している星野義延氏



基調講演

雑木林の豊かな自然

講師: 星野義延氏 東京農工大学准教授

1955年生まれ。専門は植生管理学、植生学。博士。里山や森林の植生調査や雑木林等の再生について研究。市民団体のアドバイザーとしても幅広く活動している。著書・監修書に『どんぐり大図鑑』(PHP研究所)、『図説日本の植生』(朝倉書店)など。

パネルディスカッション

まちの中に森を育て楽しむ

～森の再生、市民参加、まちづくりの視点から～

【パネリスト】

谷川清宣氏: 国分寺市エクス山等市民協議会座長

佐藤留美氏: NPO法人NPO birth(バース)事務局長

村井寿夫氏: NPO法人市民まちづくり会議・むさしの副代表

【コーディネーター】

田中雅文: 武蔵野の森を育てる会代表

- 定員: 50名(申込順、2月1日受付開始)
- 参加費: 無料
- お申込み・お問い合わせ: 武蔵野の森を育てる会
Eメール: info.mnomori@gmail.com
(お名前、ご住所、電話番号をお知らせ下さい)

森や自然が好きな方、どなたでも大歓迎です。身近な自然を楽しむためのヒントが得られることでしょう。

主催: 武蔵野の森を育てる会
共催: 武蔵野市

武蔵野の雑木林って何？

武蔵野台地はかつてススキ野原でしたが、江戸時代に農民がクヌギやコナラの雑木林をつくりました。その林の木や枝を燃料に、落ち葉を畑の肥料に利用することで生活が成り立っていました。木は伐採しても切り株から萌芽が育ち、また林になります。この循環で雑木林は維持されていました（萌芽更新）。

このような林は洋の東西を問わず存在し、英語でコピス（coppice）といいます。

今日、エネルギー革命によって薪や炭は不要となり、雑木林の放置による問題が各地で生じています。そこで、多摩地域の各地で、自治体や市民団体が林の自然再生を試み、現代における最適な方法を模索しています。



再生した雑木林
(都立小宮公園)

パネリストのプロフィール

谷川清宣氏

国分寺市西恋ヶ窪緑地（エックス山）の雑木林の自然再生（若返り）をめざし、2009～2010年に約1500m²の樹木更新を試みました。

佐藤留美氏

武蔵野台地にある多くの緑地・公園（武蔵野中央公園ほか）の管理運営をおこない、市民がみんなで楽しく自然や緑に触れあう活動を生み出しています。

村井寿夫氏

本業は緑と造園の設計。ボランティアとして地元のコミュニティづくりやまちづくりに参画し、そこでの森や雑木林の意味を追究しています。

- ♥ 日々、暮らしに森や林との触れあいを取り込みたい。
- ♥ 森や林には、多くの生きものたちが元気に暮らしてほしい。
- ♥ 未来の子どもたちに、自然ゆたかな地元の森や林を残したい。

武蔵野市内の雑木林「独歩の森」

開発が進んだ武蔵野市ですが、「独歩の森」と呼ばれる雑木林が境4丁目にあります。住宅街の中にあり、武蔵野市立境山野緑地（さかいさんやりょくち）の南側半分を占めています。「独歩の森」は、市内に残された貴重な雑木林として子どもたちの自然体験、市民の散歩や憩いの場などに利用されています。

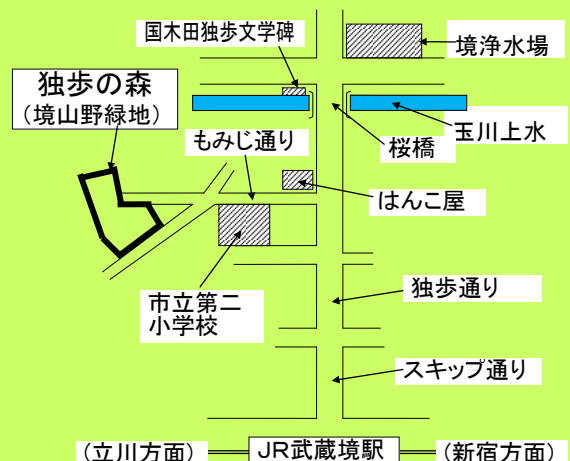
「独歩の森」をはじめ、まちの中に点在するこうした小さな森や林を、よりよい状態で未来の子どもたちや市民に引き継いでいくため、何が必要なのでしょうか。

今回のシンポジウムからたくさんヒントがあるでしょう。



冬枯れの「独歩の森」

「独歩の森」はどこにあるの？



【独歩の森（境山野緑地）へのアクセス】

JR中央線武蔵境駅北口より徒歩10分、スキップ通りを直進してはんこ屋さんの角を左折した先にあります。西武バス、関東バスの停留所「桜橋」からは徒歩5分。（住所：武蔵野市境4-5）

（この用紙は再生紙を使用しています）